

「2010 年度 鶴岡キャンパス研修」報告書
薬学研究科 修士 1 年 清水賢一

平成 22 年 10 月 28 日(木)、29 日(金)、大学院 GP の一貫として、医・薬研究科の修士課程の学生を対象とした研修が慶應義塾大学先端生命科学研究所(鶴岡キャンパス)で行われました。鶴岡キャンパスでは、「総合システムバイオロジー」という新しい研究分野を先導しており、究極の成分分析化学といわれる「メタボローム解析技術」を用いて疾病のバイオマーカーの探索や創薬の開発研究に貢献しています。信じられない数の CE-TOF-MS



や学生が立ち上げたベンチャー企業、想像をはるかに超える研究がそこにはあり、参加者一同、大いに感激・興奮していました。

今回の研修では、二日間にわたって鶴岡キャンパスと当方側の教員、学生による研究発表が行われました。鶴岡、医・薬学それぞれの特徴を知れる良い経験ができたと思います。中でも、私が最も衝撃を受けたのは、鶴岡の学生の「発想力」がとっても豊かということです。研究テーマを聞くだけで面白いと感じたのは人生で初めてでした。これは、世界最先端の素晴らしい環境の中で研究ができるという理由に加え、富田勝所長の強い「熱意」があるからこそだと思います。富田所長から研究所全体のオーバービュープレゼンテーションやメタボローム解析技術の現状と将来性についてお話をいただきましたが、そのお話を聞いているだけで熱意が伝わってくるほど研究に熱い方でした。この熱意が学生に伝わるからこそ、良い研究ができるのだと思います。

今回の研修で、私は鶴岡の学生から大きな刺激を受けました。鶴岡の学生を含め、私達は世界の研究を先導していかなければなりません。そのためにも、交流の機会を絶やさず、互いを高め合わなければならないと強く感じました。



鶴岡キャンパス研修という素晴らしいプログラムを支えていただいた、富田所長をはじめ、鶴岡キャンパスの学生さんや関係者の方々に心より御礼申し上げます。